

平成28年度
事業報告書

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ

【理事会開催日】 平成29年5月31日
【評議員会開催日】 平成29年6月16日

《 目 次 》

| | |
|-------------------------|----|
| 基本理念 | 1 |
| 経営理念 | 1 |
| サービス方針 | 1 |
| 組織図 | 2 |
| 法人沿革 | 3 |
| 法人概要 | 3 |
| 事業報告 | 4 |
| 法人及び事務局 | 4 |
| 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム | 11 |
| デイサービスセンター サムフォット | 22 |
| 居宅介護支援事業所 ポム | 28 |
| 小規模多機能型居宅介護事業所 サイト | 31 |
| デイサービスセンター サイト | 37 |
| ショートステイセンター サイト | 43 |

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 基本理念

一隅を照らす

— 与えられた役割を担って、価値を認められしっかりと存在する —

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 経営指針

利用者・家族に優しい施設を目指します

(すべてを含め、利用者、家族に優しい)

地域社会への貢献を目指します

(社会福祉法人に求められている一つに地域貢献があり、保育所や小中学校との連携)

施設の充実と発展をめざします

(施設とは、狭義では職員であり、職員の充実が施設の充実になる。職員間の連携を強化し技の向上等資質を高めていく)

平成17年1月4日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
理事長 武政 茂子

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ サービス方針

■ 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム

Sweet service (スウィート サービス)

(良きサービスは残しつつ、一歩先のやさしいサービスを提供します)

Heart to heart (ハート トゥ ハート)

(すべてのことに心のこもったサービスを提供します)

Home away from home (ホーム アウェイ フロム ホーム)

(第二の我が家のような居心地のよいサービスを提供します)

■ デイサービスセンター サムフォット

Service And Management For Old Timers

(齢を重ねゆく方々に心のこもったサービスと手助けを)

■ 居宅介護支援事業所 ポム

Peace Of Mind

(心からの安心をあなたに)

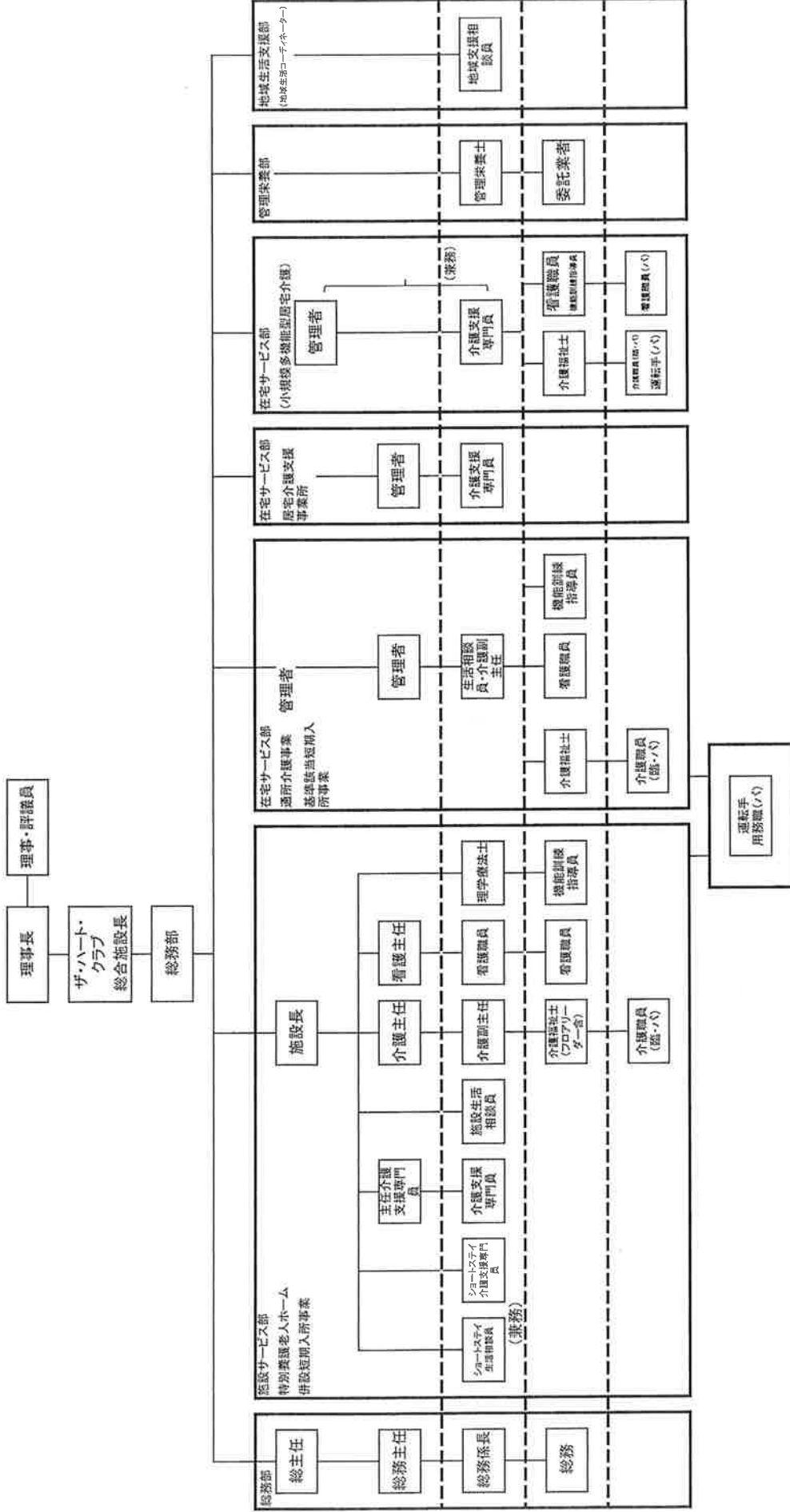
■ 在宅介護支援事業所 サイト

Settle In This Area

(住み慣れた地域で暮らす)

平成26年3月16日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
理事長 武政 茂子

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 組織図 (平成28年4月1日)



《 法 人 沿 革 》

| | |
|------------------|--|
| 平成 5 年 3 月 22 日 | 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立認可 |
| 3 月 25 日 | 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立登記 |
| 6 月 23 日 | 建物着工〔日本自転車振興会、高知県、高知市補助金〕 〔医療法人厚洋会寄付〕 |
| 平成 6 年 3 月 31 日 | 建物竣工 |
| 4 月 1 日 | 高知市在宅介護支援センターかもだ 事業開始 高知市ホームヘルパー 派遣事業開始 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 事業開始 |
| 6 月 1 日 | ショートステイ 事業開始 |
| 7 月 1 日 | デイサービスセンター サムフォット 事業開始 |
| 平成 8 年 4 月 1 日 | 『ホームヘルパーステーションかもだ』と名称変更 |
| 平成 9 年 4 月 1 日 | デイサービスセンター サムフォットにてホリデイサービス開始 |
| 平成 11 年 7 月 31 日 | 高知市在宅介護支援センターかもだ 事業廃止 |
| 平成 12 年 3 月 31 日 | 高知市ホームヘルパー 派遣事業廃止 |
| 平成 12 年 4 月 1 日 | 介護保険施設として事業開始(3事業) |
| 平成 18 年 4 月 1 日 | 介護予防サービス事業開始(介護予防通所介護、介護予防短期入所生活介護) |
| 平成 24 年 3 月 1 日 | 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 増床 (特養30床・短期入所生活介護6床) |
| 平成 24 年 6 月 1 日 | 居宅介護支援事業所 ポム 事業開始 |
| 平成 26 年 3 月 24 日 | 小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 事業開始 デイサービスセンター サイト 事業開始 ショートステイセンター サイト 事業開始 |
| 平成 28 年 10 月 1 日 | 高知市介護予防・日常生活支援総合事業 事業開始(通所介護) |

《 法 人 概 要 》

平成29年3月31日

| | |
|---------------------|--|
| 【 法 人 名 】 | 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ |
| 【 代 表 者 役 職 氏 名 】 | 理事長 武政 茂子 |
| 【 理 事 数 】 | 6名 |
| 【 監 事 数 】 | 2名 |
| 【 評 議 員 数 】 | 13名 |
| 【 事 務 所 の 所 在 地 】 | 〒780-8061 高知県高知市朝倉甲64番地1 |
| 【 電 話 番 号 】 | 088-840-7100(代表) |
| 【 F A X 番 号 】 | 088-840-7480 |
| 【 事 業 の 名 称 ・ 種 類 】 | 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 介護老人福祉施設 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護 デイサービスセンター サムフォット 通所介護 介護予防通所介護 居宅介護支援事業所 ポム 居宅介護支援 小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター サイト 通所介護 介護予防通所介護 ショートステイセンター サイト 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護 |
| 【 管 理 者 役 職 氏 名 】 | 施設長 伊東 健一 |

平成28年度 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 事業報告

第1章 法人及び事務局

1. 法人

法人の実務・財務に関して、透明性のある健全経営を行うことに努め、法人発行の広報誌、ホームページ及び介護サービス情報公表システムを通じて情報公開を行った。広報誌においては、オールカラーにしたことで、ご利用者の表情や行事の様子などが視覚的に見やすくなり、ご家族に好評をいただいた。ホームページにおいては、1年間を通じて月平均3回の更新をすることができた。引き続き、個人情報の取り扱いに十分注意しつつ、広報誌やホームページの充実を図っていききたい。

また、平成29年4月から改正社会福祉法が施行されるにあたり、国から示された手順やスケジュールに従い、定款の変更や評議員選任・解任委員の選任などを行った。今回の改正に伴い、様々な事務手続きが生じたが、それを行うことで終了ではなく、広く社会に対して貢献するということを法人自らが実践し、周知していくことが必要であり、新たに義務付けられた地域における公益的な取組などを通じ、法人としてどのような社会貢献を果たしていくかについて、継続的に検討していく。

2. 事務局

ストレスチェック制度が開始されるにあたり、情報管理体制の強化が必要となった為、最新のセキュリティ機器を導入し、職員から取得した情報等をより安全に管理できる体制を整えた。

そのストレスチェック制度においては、実施前の準備段階としてストレスチェック実施方針や実施体制図、実施計画、実施規程を作成し、総務内で取扱担当者を決めて、平成28年11月に実施した。今後は、検査結果を集団ごとに分析して職場におけるストレス要因を調べ、職場環境の改善に繋げていきたい。

また、介護保険収入においては、各介護保険事業の稼働率や加算取得率の把握に努め役付会の資料として提示することにより、役職者間での情報共有と検討を行ったが、利用者の重度化や高齢化に伴い、体調不良や入院等による急なキャンセルが在宅サービス全体に見られた。

今後は、これまで以上に介護度や稼働率、利用者の健康管理などに対する意識を高く持ち、各部署が連携し事業運営の安定化に向けて取組んでいく。

3. 各委員会の取り組み（職員研修）

職員の質の向上と介護保険施設としての役割と責任意識を持つため、また、今後の介護保険を取り巻く状況の情報収集を行うため、施設外研修への積極的な参加に努めた。

また、ご利用者の生活の質の向上を図るため、介護力向上委員会を中心に各委員会が連携し、不適切ケア・自立支援・認知症ケア・個別ケアのケア技術の向上に努めた。さらに、現場のリーダー格の職員が、不適切な行為やかかわりとはなにか、なぜいけないのかということについて、十分に理解し、体験と実感を持って現場の職員に伝えることができることを目的とした、質の向上に関する内部研修を複数回行った。

平成28年度は新たな委員会として衛生委員会を立ち上げ、平成29年1月から毎月1回の頻度で委員会を開催した。衛生委員会では、実施計画で定めた月ごとのテーマに沿って話し合い、その会議内容を会議録にて全職員に周知した。今後も、労働環境や労働安全衛生に関することを

労使で話し合い、産業医と連携しながら、利用者が安心して過ごすことができ、職員が安全に働くことができる施設づくりを推進していきたい。

平成29年度も、引き続き根拠に基づいたケアの実践と質の向上を目指し、ご利用者の自立支援を目標に基本的なケア方法等の習得に努めるとともに、各所属部署において具体的なケア方法や技術を身につける事ができるよう各委員会活動に積極的に取り組む。

4. 事故発生時の対応に関する取り組み（苦情対応）

苦情受付担当者・苦情解決責任者を置くとともに、入居者・利用者の相談窓口を設置し、その都度適切な対応に努めた。

平成28年度は、苦情として2件の申し出があり、送迎車の運転マナーと、利用者の昇降時の停車場所についての注意となっている。職員の対応について、その都度適切な対応と改善に努め、サービス検討会等において周知し意識統一を図ったが、職員の意識改革のため職員相互間での注意しあえる環境作りが必要である。

送迎車両による人身事故が平成28年度には4件発生し、うち3件が加害者となっていることから、安全運転、交通ルールの遵守について、注意喚起を行った。

また、介護事故発生件数は1年間で昨年度よりは20件増加し、220件起きており、転倒による事故は1年間に84件発生し全体の約37%を占めている。その都度検討し転倒リスクの高い方の離床対応にはコールマットや離床センサー等を活用するなどの対策を取っているが、自己にて移動可能な方もいるため活動範囲も広く、対応が困難なケースもあり、引き続き対応方法を検討していく必要がある。

誤薬に関する事故は6件発生し昨年度より2件減少している。服薬介助担当職員の初歩的な確認ミス等の人為的な原因によるものとなっており、安全・安心な生活の提供が出来たとは言えない状況であった。

事故発生時・事故後には、本人・家族に対して担当職員等がお見舞いやお詫びを行うなどの初期対応を実践し本人・家族への誠意ある対応に努めていく。

5. 非常災害対策

火災に関する定期的な防災訓練を、事業計画どおり年2回の実施することが出来た。また、平成28年度は震災時における事業継続計画（BCP）を活用し、災害時における対応を法人として、一体的な取り組みとして避難訓練や炊き出し訓練のほかにも、備蓄品の在庫確認や緊急時の連絡体制や救急法の講習会を各事業所合同で開催し、生命の安全を第一に考え実践に即した内容で訓練等を通じて、緊急時における個々の対応力の向上や体制整備の強化に努めた。

【 理事会開催状況 】

| 開催年月日 | 出席者数 ／定数 | 議 題 | 理 事 (欠席者氏名) | 監事出席有無 (出席者氏名) |
|-------------|-------------|---|-----------------|-------------------|
| 平成28年5月26日 | 4／6 | 第1号議案 平成27年度 事業報告の承認について 第2号議案 平成27年度 会計報告の承認について (監査報告) 第3号議案 平成28年度 第1回補正予算(案)について 報告 改正社会福祉法について | 松本 猛彦 竹村 邦夫 | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成28年8月22日 | 5／6 | 第1号議案 新規事業について(案) | 濱宇津 邦子 | |
| 平成28年9月9日 | 4／6 | 第1号議案 定款変更について 報告 社会福祉法人制度改革について | 犬丸 佐保 濱宇津 邦子 | |
| 平成28年11月28日 | 6／6 | 第1号議案 定款変更について 第2号議案 平成28年度 第2回補正予算(案)について 第3号議案 新規事業について 報告 ストレスチェックについて 衛生委員会について | | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成29年1月21日 | 5／6 | 第1号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第2号議案 評議員選任・解任委員の報酬について 第3号議案 評議員候補者の推薦について 第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集決定について 第5号議案 新規事業について | 岡村 多津子 | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成29年3月20日 | 6／6 | 第1号議案 平成29年度 事業計画(案)について 第2号議案 平成28年度 第3回補正予算(案)について 第3号議案 平成29年度 当初予算(案)について 第4号議案 新規事業について 報告 役員等報酬支給規程について | | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成29年3月27日 | 5／6 | 第1号議案 理事長の選任について | 犬丸 佐保 | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |

【 評議員会開催状況 】

| 開催年月日 | 出席者数 ／定数 | 議 題 | 評 議 員 (欠席者氏名) | 監事出席有無 (出席者氏名) |
|-------------|-------------|---|-------------------------|-------------------|
| 平成28年5月26日 | 10／13 | 第1号議案 平成27年度 事業報告の承認について 第2号議案 平成27年度 会計報告の承認について (監査報告) 第3号議案 平成28年度 第1回補正予算(案)について 報告 改正社会福祉法について | 松本 猛彦 竹村 邦夫 西山 由理 | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成28年11月28日 | 12／13 | 第1号議案 定款変更について 第2号議案 平成28年度 第2回補正予算(案)について 第3号議案 新規事業について 報告 ストレスチェックについて 衛生委員会について | 橋本 誠 | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |
| 平成29年3月20日 | 13／13 | 第1号議案 平成29年度 事業計画(案)について 第2号議案 平成28年度 第3回補正予算(案)について 第3号議案 平成29年度 当初予算(案)について 第4号議案 任期満了に伴う役員の再任及び欠員補充 の為の役員の選任について 第5号議案 新規事業について 報告 役員等報酬支給規程について | | 大石 敏夫 渡辺 泰方 |

【職員研修】(施設内)

| 実施年月 | 研修会名 | 研修内容 | 参加職種 |
|----------|---------------|---------------------|----------|
| 平成28年 4月 | 炊き出し訓練 | いざという時の食事作り体験 | 全職種 |
| | 全体研修会 | 高齢者虐待防止について 伝達講習 | 全職種 |
| | 全体研修会 | 大量調理と家庭内の食中毒予防について | 全職種 |
| | 第1回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 5月 | 職員説明会 | 平成28年度の目標等 | 全職種 |
| | 救急救命講習 | AED・心肺蘇生法・応急措置 | 全職種 |
| | 全体研修会 | マナー研修 | 全職種 |
| | 全体研修会 | 長期療養高齢者の排便ケアについて | 全職種 |
| | 第2回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 6月 | 全体研修会 | ポジショニングについて | 全職種 |
| | 消防避難訓練 | 夜間想定の大規模火災避難訓練 | 全職種 |
| | 第3回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 7月 | 第4回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 8月 | 第5回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 9月 | 全体研修会 | 口腔ケアについて | 全職種 |
| | 全体研修会 | 褥瘡と栄養について | 全職種 |
| | 全体研修会 | ヒヤリハットの意義を理解し実践に活かす | 全職種 |
| | 第6回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 10月 | 全体研修会 | 認知症とケアについて | 全職種 |
| | 全体研修会 | 喀痰吸引と胃ろう栄養について | 全職種 |
| | 第7回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 11月 | 全体研修会 | 高齢者虐待防止について | 全職種 |
| | 全体研修会 | 高齢者介護施設と感染対策について | 全職種 |
| | 第8回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 12月 | 全体研修会 | ホームでの看取りケアについて | 全職種 |
| | 合同消防訓練 | 昼間想定の大規模火災避難訓練 | 全職種 |
| | 炊き出し訓練 | 非常食の活用について | 全職種 |
| | 全体研修会(リーダー研修) | 不適切ケアについて① | 全職種 |
| | 第9回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 平成29年 1月 | 第10回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| | 2月 | 全体研修会 | ケアの質向上研修 |
| 2月 | 全体研修会(リーダー研修) | 不適切ケアについて② | 全職種 |
| | 第11回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |
| 3月 | 全体研修会(リーダー研修) | 不適切ケアについて③ | 全職種 |
| | 全体研修会 | 危険予知訓練について(GW) | 全職種 |
| | 第12回口腔ケア指導 | 歯と健康について | 全職種 |

合 計 3 6 回

【職員研修】(施設外)

| 実施月 | 研修会名 | 研修内容 | 参加職種 |
|------------------------------|------------------------------|--|----------------------------------|
| 平成28年 4月 | 高知県老人福祉施設協議会 総会 研修会 | 事業報告 決算・事業計画 予算 | 施設長・総主任・総務 |
| | 平成28年度介護力向上講習会 徳島・香川分校 | 認知症ケア理論(講義) | 施設長・介護職員 |
| 5月 | 医療法人・社会福祉法人経営者向けビジネスセミナー | 改正社会福祉法&改正医療法 対応経営戦略セミナー | 総主任 |
| | 西部ブロック会 | 循環器疾患の基礎を学ぼう | 居宅 |
| | 第1回中央Bブロック栄養士勉強会 | 摂食嚥下の基礎と口から安全に 食べるために | 管理栄養士 |
| | デイサービスの指導・監査対応セミナー | 今年度の指導・監査重点指導 事項 等 | 管理者・介護職員 |
| | 高知市居宅介護支援事業所協議会総会 | 日常生活支援総合事業に関する説明 | 居宅ケアマネ |
| | 介護予防・日常生活支援総合事業に関する説明会 | 総合事業の概要及び本市の現状 | 管理者 |
| 6月 | 四国老人福祉施設関係者研究大会 | 地元とともに未来へ歩む | 施設長・総務主任・管理者・看護職員 ・介護副主任・介護職員 |
| | ミュージック・ケア研究会 | 地域包括システムとして総合事業における 介護予防プログラムに活かせるミュージック ・ケアの体験と理論 | 管理者・介護職員 |
| | 高知県経営者協議会総会 | 社会福祉法人改革への対応について 他 | 理事長 |
| | 第1回中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会 | 実地指導監査について 他 | 生活相談員・ケアマネ |
| | 西部地域医療カンファレンス | 家族介護がない独居患者を自宅 で看取るために | 居宅ケアマネ |
| | 施設長会 | 情勢報告と対応について | 施設長 |
| | 高知県福祉・介護就労環境改善推進事業 | 介護福祉機器等の導入・活用に向けた 説明会 | 施設長 |
| | 介護実習意見交換会 | 学校職員紹介 他 | 介護主任・介護職員 |
| | 雇用管理責任者講習 | 介護労働者の賃金管理 介護労働者の雇用管理総論 | 総主任 |
| | 7月 | 高知県リハビリテーション研究大会 | 病気としての若年性認知症の実際他 |
| 7月西部ブロック会 | | 特定事業所集中減算について | 居宅ケアマネ |
| 機関誌編集委員会 | | 食と栄養について | 管理栄養士 |
| リーダー養成研修 | | 介護技術の伝え方・教え方について | 介護職員 |
| 雇用管理責任者講習 | | 介護労働者の賃金管理 介護労働者の雇用管理総論 | 総主任 |
| 機関誌編集委員会 | | 食と栄養について | 管理栄養士 |
| 8月 | 多職種で考える地域連携緩和ケア研修会 | 在宅看取り | 居宅ケアマネ |
| | 自立した生活を支援するためのケアマネジメント研修会 | ケアマネジメントに日地羽陽名基礎知識 に関する講義と演習 | 居宅ケアマネ |
| | 中央Bブロック 栄養士勉強会 | 経管栄養について | 管理栄養士 |
| | 運営委員会 | 調理講習会について | 管理栄養士 |
| | リーダー養成研修 | 介護技術の伝え方・教え方について | 介護職員 |
| | 社会福祉法人制度改革対応セミナー | 社会福祉法改正への対応と実践 | 施設長・総主任 |
| | 高齢者虐待予防研修会 | 虐待の早期発見と初期対応を学ぶ | 居宅ケアマネ |
| | 研修部会講演会 | 褥瘡について | 管理栄養士 |
| | 社会福祉法人制度改革に関する説明会 | 社会福祉法人制度改革の概要について | 施設長・総主任 |
| | 平成28年度高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業 | 基本研修・実地研修 | 介護職員 |
| | 9月 | 第2回研修会 | 最期まで食べる支援を成功させるコツ |
| ケアマネジメントに必要な医療講座 | | 高齢者の疾患の特徴 | 居宅ケアマネ |
| 創傷ケアセンター講演会 | | 足のSOSを見逃さない！足病を徹底予防 | 看護師・介護職員 |
| 平成28年度介護力向上講習会 徳島・香川分校 | | 認知症ケア理論(事例) | 介護職員 |
| 認知症研修会 | | 認知症・精神疾患の症状について | 居宅ケアマネ |
| 福祉サービス苦情解決セミナー | | 苦情相談対応の方法と実際 | 生活相談員・第三者委員 |
| 第2回中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会 | | BGPIについて 防犯について | 生活相談員・ケアマネ |
| 高齢者こころのケアサポーター養成研修 | | 高齢者のメンタルヘルスについて | 生活相談員・居宅ケアマネ・介護職員 |
| 総合事業移行 システム説明会 | | 総合事業移行 システム説明会 | 総務 |
| 第1回中央ブロック事務職員勉強会 | | 地域貢献 社会福祉法改定について | 総務 |

| | | | |
|---------------------------|------------------------------|---------------------------------|------------------|
| 10月 | 施設内感染対策研修会 | 施設における感染症対策 | 看護主任・看護師 |
| | 事務職員研修会 | 社会福祉法人制度改革について | 総務 |
| | 社会福祉法人改革セミナー | 社会福祉法人改革について | 施設長・総主任 |
| 11月 | 高知県老協協中間管理職合同研修会 | 機能訓練指導員の役割と介護・看護との連携について | 機能訓練指導員・看護師・介護職員 |
| | コンプライアンス・虐待防止セミナー | 介護・福祉事業所に必要なコンプライアンス研修と虐待防止活動 | 管理者 |
| | 平成28年度介護力向上講習会 徳島・香川分校 | おむつゼロのまとめ | 介護職員 |
| | 中央ブロック 栄養士勉強会 | 防災について | 管理栄養士 |
| | 全国老人福祉施設大会 石川大会 | 地域共生社会をつくる日本型介護・福祉 | 施設長・総主任・管理者・介護職員 |
| | 介護福祉士実習指導者講習会 | 介護福祉士実習指導者講習会 | 介護職員 |
| | 改正社会福祉法対応実践セミナー | 定款変更の留意点と設例にみる社会福祉充実残額の算定 | 総務主任 |
| | 小規模多機能 全国大会 | 実践が制度を作り、育てる、小規模多機能型居宅介護 | 管理者・介護職員 |
| | 社会福祉法人制度改革対応セミナー | 改正法を活かした社会福祉法人の法人経営 | 施設長・総主任 |
| | 機関誌編集委員会 | 機関誌「食と栄養」について | 管理栄養士 |
| 12月 | 四国ブロックカンントリーミーティング | 四国ブロックカンントリーミーティング | 施設長・生活相談員 |
| | 南海トラフ地震及び長期浸水被害に関する説明会 | 南海トラフ地震及び長期浸水について | 施設長 |
| 平成29年 1月 | 認定調査員現任研修会 | 認定調査の基本的な考え方、伝わる特記事項の書き方 | ケアマネ |
| | 平成28年度介護力向上講習会 徳島・香川分校 | 常食化(事例) | 介護職員 |
| | 高知市との意見交換会 | 高知市との意見交換会 | 施設長 |
| | 全国老人福祉施設研究会議 | 長崎大会 | 施設長・介護職員 |
| 2月 | 社会福祉施設総合保険制度説明会 | H29年度の社会福祉施設総合保険制度について | 総主任・生活相談員 |
| | 中央ブロック 栄養士勉強会 | 実地指導監査の報告 | 管理栄養士 |
| | デイサービスセンター研修会 | 介護職場でのマナーについて | 管理者・生活相談員 |
| | 四国老協セミナー | 地域におかえる介護施設の可能性 | 施設長・生活相談員 |
| | 先進事例に学ぶ小規模複合型サービス起業家育成セミナー | 多様なニーズに対応可能な福祉サービス施設とは | 管理者・生活相談員 |
| | 高齢者こころのケアサポーター養成研修 フォローアップ研修 | 基礎研修の振り返り | 生活相談員・介護職員 |
| | 会計監査人非設置法人のための研修会 | 社会福祉法人の法令遵守と財務規律のチェックポイント | 総務主任 |
| | 高知県カンントリーミーティング | アンガーマネジメントを活用した怒りの感情をコントロールする方法 | 総主任・介護職員 |
| | 第4回研修会 | 各分野の栄養科の取組み事例 | 管理栄養士 |
| | 3月 | 第3回看護職員中央ブロック研修会 | 今年度の反省、次年度の日程 |
| 高齢者虐待防止研修会 | | 虐待防止とストレスケア | 管理者・ケアマネ |
| 在宅医療・介護連携に関する研修 | | 住み慣れた地域で最期まで暮らすための支え合い地域づくり | 管理者・居宅ケアマネ |
| 平成28年度介護力向上講習会 徳島・香川分校 | | 常食化(事例) | 介護職員 |
| 介護支援専門員・生活相談員研修会 | | 高齢者福祉施設で知っておきたい介護事故判例とリスクマネジメント | 生活相談員・ケアマネ |
| 高知県老協協中央A・Bブロック合同施設長会 | | 情勢報告 | 施設長 |
| 事業所内保育施設設置に係る意見交換会 | | 事業所内保育施設設置に係る支援制度について | 施設長 |
| | | | |

第2章 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム(短期入所生活介護含む)

1. 食 事

管理栄養士による栄養管理のもと、栄養ケアマネジメントの充実を図るため食事委員会を毎月開催し、個々のその時々状態に合わせ食事形態の変更や、栄養補助食品の検討等を行い低栄養の防止に努めた。また、ご利用者の嗜好調査、食事サービス向上委員会等の活動を活発にし、季節や行事に合わせた食事を提供した。胃ろう、ペースト食、キザミ食のご利用者に対しては食事委員会と介護力向上委員会が連携を取り、常食化への取り組みを行い、食への関心を高め、利用者に喜ばれる食事の提供に努めた。入居者・ご利用者の多様なニーズに対しては、食事委託会社との密なる連携に努めた。

2. 入 浴

入居者・ご利用者一人ひとりの持てる力を最大限活かした介助、援助を心がけ、清潔の保持による心身の解放感・充実感の提供に努め、週2回以上の入浴又は清拭を実施し、皮膚の状態観察を行い発赤・褥瘡等の早期発見・治療に努めた。また、拒否のあるご利用者に対しては入浴日以外にも声かけを行い、清潔保持の為に可能な限りの対応として個々の希望に応じた個別対応をした。

平成28年度は、入浴時の直接的な皮膚接触による感染予防のため予防衣や手袋を使用することで、職員が媒介者になることを防ぐとともに、皮膚観察による異常の早期発見に努めた。

3. 排 泄

入居者の生活の質の向上を図るため、排泄委員会と介護力向上委員会が連携し「水・栄養・排泄・運動」の取り組みを行い、日中はトイレで排泄してもらえよう個別の排泄パターンに合わせた随時誘導を原則としてトイレ誘導を行っている。また、施設独自の「排泄の理念」と介護力向上講習会で学んだ「オムツはずしの定義」に沿ったケアを実践し、積極的に取り組みを行っている。

4. 機能訓練

専従の理学療法士の配置、月2回の外部からの理学療法士による機能回復訓練と3ヶ月毎の評価の実施、機能訓練計画に基づいた個別訓練等を実施し、個々の残存機能の維持を図るため介護職員と共同による機能訓練の充実を努めた。また、重度化により機能訓練が困難だった方に対して、状態に合わせて歩行訓練や可動域訓練等を実施することが出来た。

5. 健康管理

嘱託医の診断のもと、それぞれの健康に留意したバイタルチェック、健康診断、通院、投薬介助等入居者の健康維持、管理に取り組んできた。また、適正時期にインフルエンザ予防接種を実施し、ノロウイルス等の伝染性疾病にも留意し、感染予防対策として「うがい・手洗いの励行」・「マスクの着用」に努めた。職員や職員の家族等でのインフルエンザの感染者は出たが、すぐに出勤停止等の措置を取り蔓延防止に努めたため、ご利用者へ感染することなく、また、一斉に職員が感染することもなく業務遂行にもほとんど支障がなかった。

今までの経験を活かし、インフルエンザ等だけでなく、様々な感染症に留意し、感染症流行時

期等も踏まえ、今後はより一層ご利用者の感染予防や健康管理に努めていく。

6. レクリエーション活動

レクリエーション活動は、単調になりがちな入居生活に変化をもたらし、また、ご利用者の自立支援の点からも重要な活動であり、季節感を取り入れた行事レクや生け花教室、職員によるゲーム、遠足等外出レクを取り入れ全体的なバランスを考えた計画を立て、今年度は計画通りに行事が実施することが出来た。また、毎日のレクリエーションにおいては音楽鑑賞以外にもボール遊び・しりとり・輪投げ等計画表に基づいたレクリエーションを実施し少しでも楽しみある生活の支援が出来た。

今後も内容の充実に努めるとともに、外出プログラム（施設周辺の散歩等）の実施等の個別ニーズにも可能な限り対応できるように努め、また、ご家族と一緒に参加してもらえる様に遠足や夕涼み会、クリスマス忘年会などの行事案内を発信し、行事参加への呼びかけを積極的に行っていく。

7. 介護職員の医行為に関する取り組み

高知県地域人づくり事業の補助金事業を活用し、平成27年度から平成28年度に掛けて18名の介護職員が喀痰吸引等研修（50時間研修）を修了した。50時間研修修了者は、口腔内だけでなく鼻腔内の吸引もできるようになる為、夜間におけるご利用者の負担軽減とオンコールによる看護職員の負担軽減を図ることが出来る。

8. 看取り介護に関する取り組み

施設において看取り介護を実施する為に看取りケア委員会中心に、施設内研修を通じて看取り期に必要な介護の基礎知識や実践方法の習得に努めた。また、実際に看取り介護を経験することにより、その方らしい終焉を迎えていただくために必要な知識や視点を学ぶことができた。さらに各部署間や医療機関等と連携し、ご本人及びご家族の意向に沿ったサービス提供ができるように努めた。平成28年度は1名の方に対して看取りケアを提供する事が出来た。

9. 口腔機能維持に関する取り組み

摂食及び嚥下障害のあるご利用者に対し、適切なケアを行う為、定期的に歯科医師による口腔ケア指導や休止していた歯科衛生士等専門職による月4回の口腔ケアを平成28年10月より再開出来たことにより、定期的に口腔内の衛生環境のチェックができ、入れ歯等の異常の早期発見にもつながった。

歯科衛生士の指導により習得した口腔機能の基礎知識や実践方法を活かし、毎食後の口腔ケアの実施・健康増進に努めた。

今後も引き続き歯科医師・歯科衛生士との連携を行い、口腔内の環境を整え、むせ込みや誤嚥の予防に努めていく。

10. ショートステイ

平成28年度の上半期は、平成27年度からの感染症の蔓延による影響が大きく、利用中止や他施設への移行によって一度離れた方を取り戻すことが困難であったが、居宅介護支援事業所への連絡回数を増やし、空床情報を直接伝えることなどの取組により新規利用者を毎月約7名確保することが出来た。しかし、家族の入院や体調不良などによる一時的な利用者が多く、リピーターの確保が困難であったが、平成28年度の平均利用人数は前年度対比約5%増となった。

平成28年度は、退院直後の方や緊急ショート依頼の受入れ等、新規利用者獲得を行ったが、夏場と冬場には体調不良による定期利用者の急なキャンセルも多くあった為、目標稼働率を達成することが出来なかった。

平成29年度も引き続き、外部居宅事業所への営業活動強化を行い、稼働率の目標達成に向けて、新規利用者の獲得とこれまでに獲得した利用者の定期利用を増やしていけるよう、家族との連携やニーズ把握を行い、健康状態の把握と安定した稼働率の維持ができるように努めていく。

(1日平均利用率は、平成27年度68.0%に対し平成28年度73.1%)

(28年度上半期の稼働率は66.9%、下半期の稼働率は79.4%。年間の平均値として73.1%となっている。)

○特別養護老人ホームの加算取得状況について

特別養護老人ホームの加算取得率状況については、加算取得一覧表の通りとなっている。平成28年度の入院者は年間63名と昨年より9名少なく、延べ入院日数も昨年度と比べ58日少なくなっている。長期間の入院になると稼働率が低下し、収入の減収につながってくるため、体調管理・状態変化には注意していく。

入院時に発生する入院加算は6日分を上限とされ、収入が居室料の自己負担分のみとなり安定した収入にはつながらない。このように入院外泊加算・初期加算・療養食加算のように変動性があるものより、日常生活継続加算等その他の変動性のない加算を多く取得するためには、日頃の体調管理と骨折等の重篤な事故を少なくすることで入院期間や入院者を減らし稼働率を確保することが効果的である。

また、口腔衛生管理体制加算においては、上半期の口腔衛生管理加算は歯科衛生士の体制が整わず加算取得できなかったが、10月以降体制が確保できたことから加算取得ができるようになった。平成28年度は誤嚥等の肺炎による入院者が入院者の約半数を占めていることから、専門職により定期的に入居者の口腔内を確認してもらうことが、早期の異常の発見・治療につながり、健康維持にも大きく関わってくる。加算取得率を向上させるためには健康管理と状態の把握を行い、ご利用者に健康的な生活を送ってもらうことが重要であり、そうすることが安定した稼働率の確保につながると考える。

平成28年度は、感染症の発生はあったものの、早期に隔離等の対策を行ったことにより蔓延することはなかった。